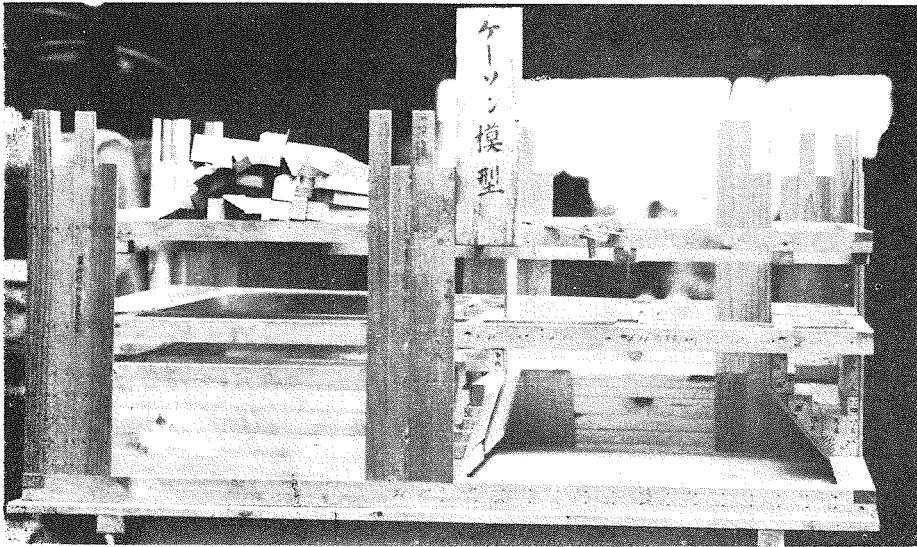


VIEWS OF THE
KOTOTOI BRIDGE OF THE RECONSTRUCTION BUREAU ON
THE SUMIDA RIVER. THE FOUNDATIONS FOR WHICH ARE
BEING BUILT BY THE OPEN CAISSON METHOD.

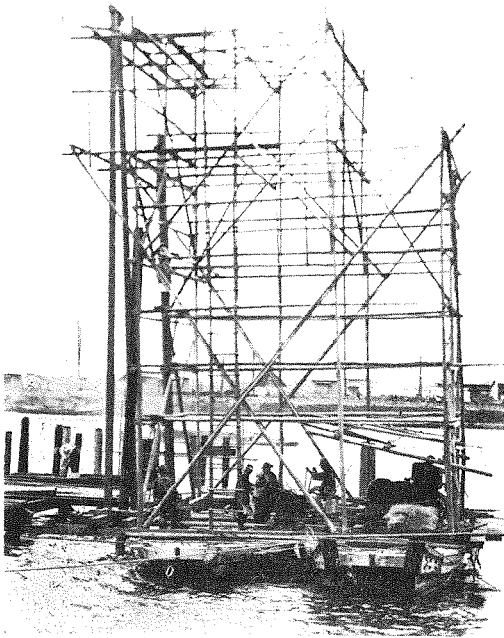


(1) 基礎工事用オープンケーソンの模型

(1) Model of Open Caisson.

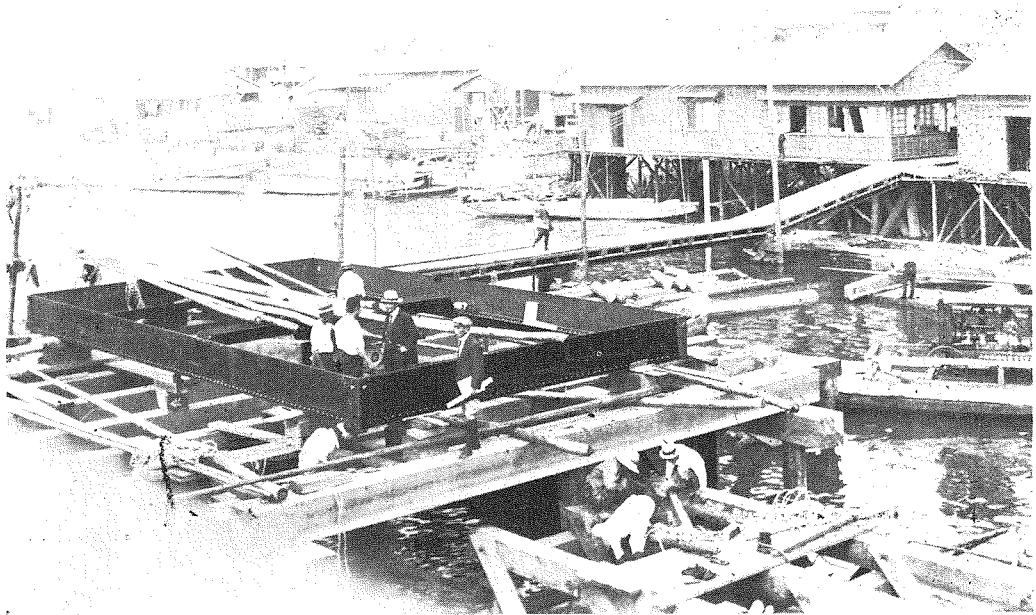
言問橋基礎工事

言問橋は帝都復興工事の一部たる隅田川六
大橋の一にして復興局橋梁課隅田川派出所の
所管工事である。基礎工事はオープンケーソ
ン工法により目下盛んに工事中である。



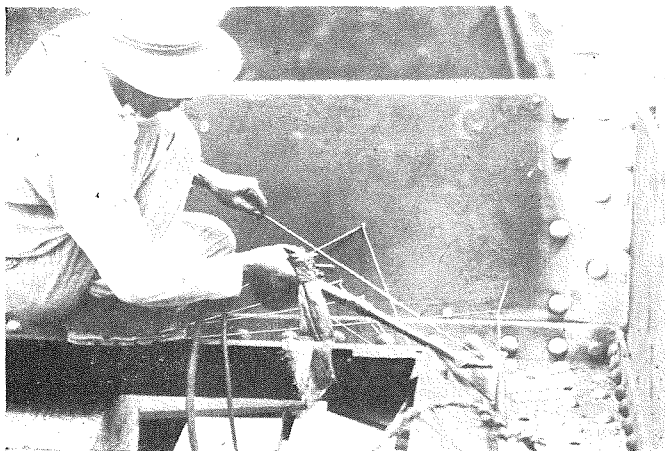
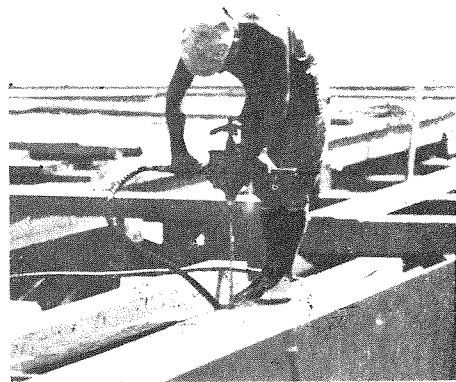
(2) 準備作業として「プラットフォーム及び棧橋の
杭打作業の實狀。

(2) The Preliminary Work, Building Platforms
and Driving Piles for Piers.

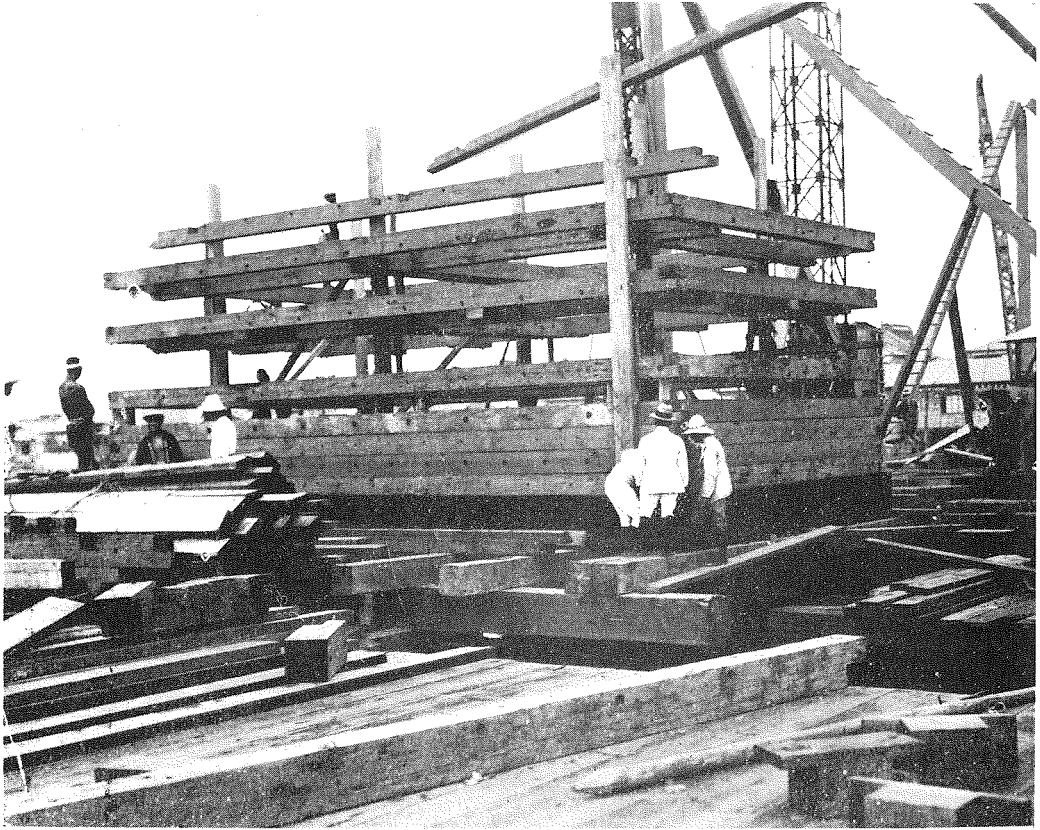


オープンケーソン概要

オープン、ケーソン即ち開函式基礎工は橋臺及橋脚に開函二基を沈下し其沈定深は東京市標高零點(干潮面)以下約七十呎内外の豫定にして沈定の後は一橋臺又は一橋脚として二開函を上部に於て結合し一の軀體を形成するものなり、開函の構造は大略下部に長さ三十一呎六吋、巾十八呎六吋の香鐵重量五噸半のものを用ひ、以上は米材木をもつて枠徑及側板を張詰め其間隔三呎六吋を保たしめ其間鐵筋混凝土を施工するものなり。



- (3) 淺草側橋臺ケーソンのカーブシュー据付實況。
- (4) ニューマチック、オーガーを使用しケーソン部材の穿孔作業。
- (5) ケーソンのカーブシュー接合部を水密にする爲め熔接作業
- (3) Laying the Curve Shoe for the Caisson on the Asakusa Side.
- (4) Using the Pneumatic Auger.
- (5) Welding the Curve Shoes.



(6) 五噸捲デリツクを使用しケーソン組立作業

(6) Using a 5 Ton Hoist in Erecting the Caisson.

言問橋基礎工事 使用機械器具

デリツク、クレーン四臺、米國マンデホイス
スティングエンヂン會社製標準型捲揚重量六千
五百封度捲揚速度、毎分百七十五呎、所要馬
力五十馬力、ブーム長さ六十呎。

可搬式空氣壓搾機 一臺
インガーツランド會社製、回轉數六百、空
氣毎分百五十立方呎、馬力每平方吋百封度、
エンヂン馬力、三十五馬力、ガソリン消費量

一時間三・六二ガロン、

ガツトメル 二臺

高橋鐵工所製、鋼製四切用外開き

バケツト 一個

ブロウノツクス會社製、容量四分ノ三立方碼

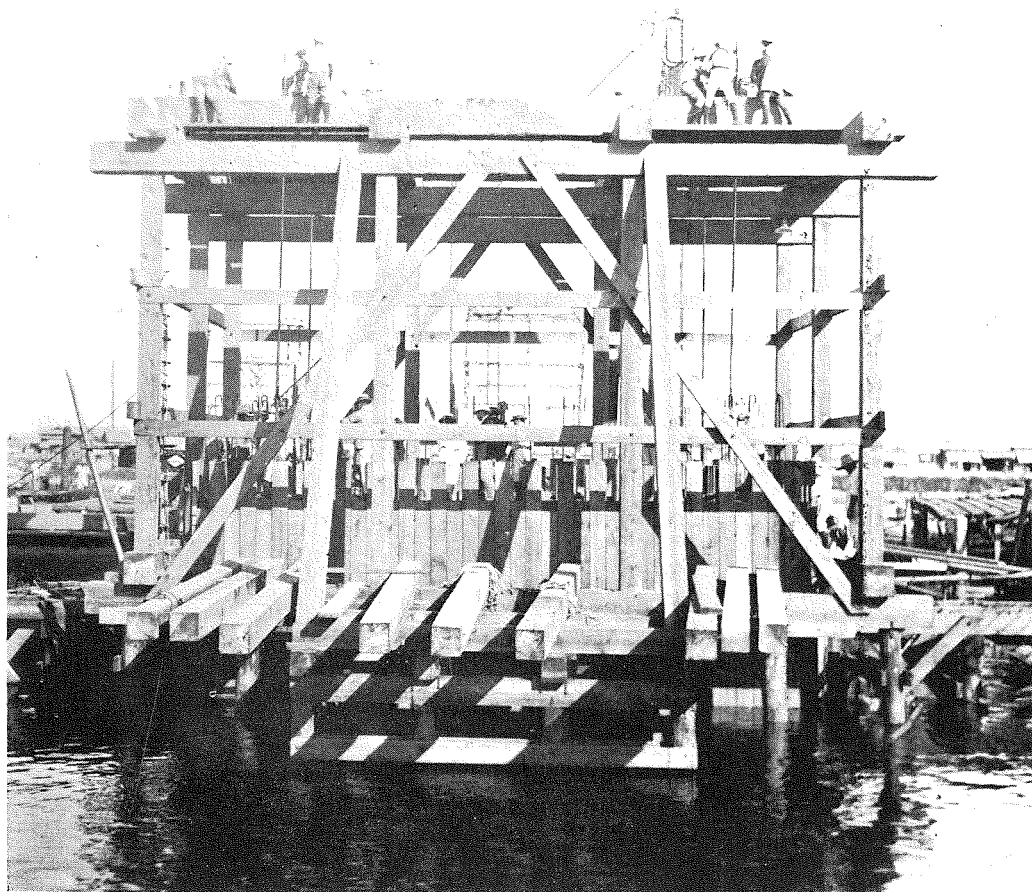
シングルライン

サンドポンプ 一臺、三十馬力

コンクリートタワー及チユート 二臺、

高八十呎(米國レーキウツド會社製)

コンクリートミキサー 四臺、七切練

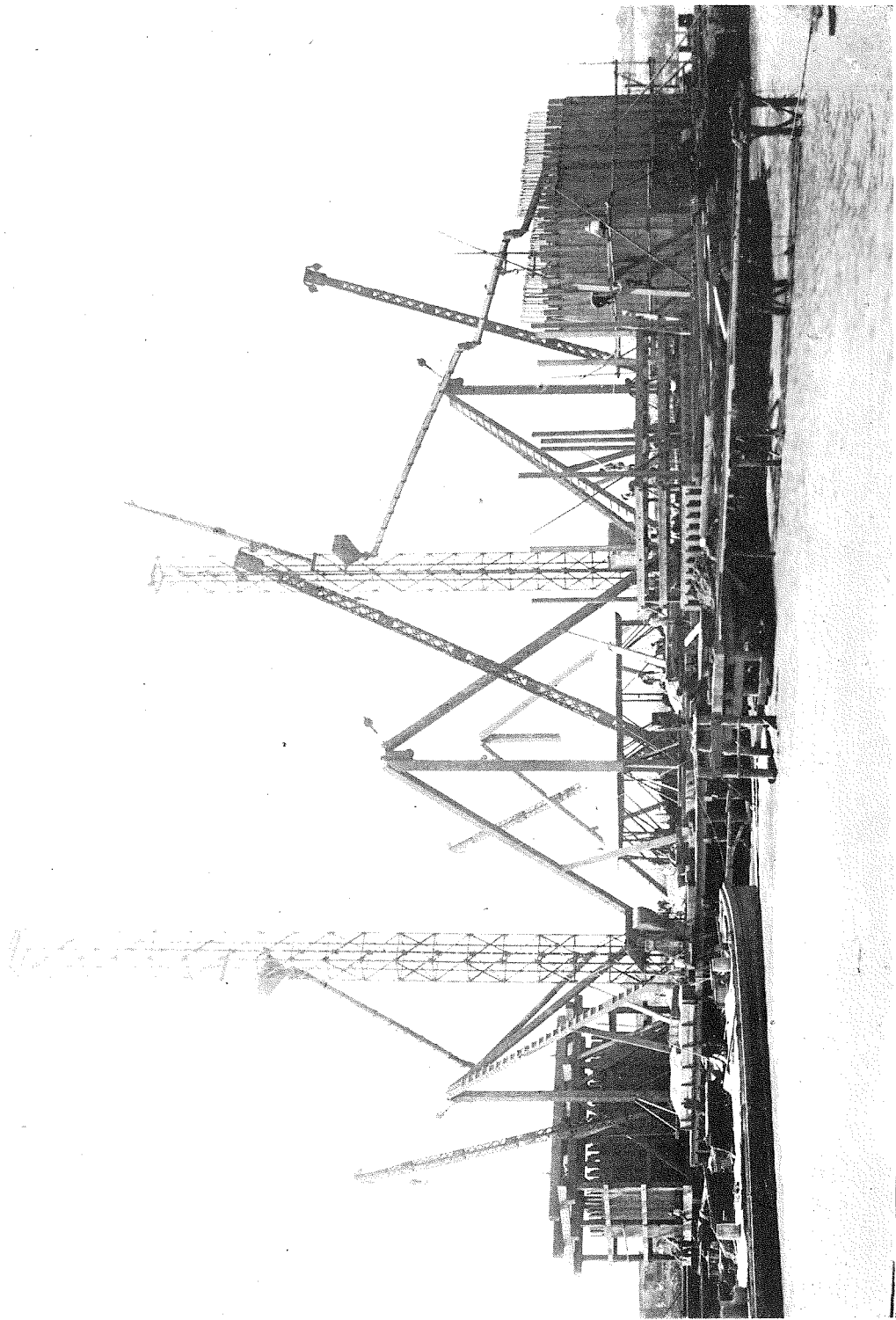


(7) 第一回ケーソン吊下げ初めの作業を了る
七月二十一日

(7) Lowering the First Caisson, July, 21st, 1925.

言問橋工事擔當者

監督者	主任垂井研二、工學士徳永素人 伊藤達太、其他
請負人	栗原源藏
着手	大正十四年四月廿六日
竣工	大正十五年七月廿五日
請負金高	金六十六萬八千圓



(8) 言問橋梁基礎工事オーブレーション作業及び
設備全景(八月十九日)

(8) General View of the Foundation Work, August, 19th, Showing the
Lakewood Concrete Placing Equipment.